

かけだしの頃



20代の頃の
地下鉄現場での1枚

株式会社熊谷組 首都圏支店
京急蒲田作業所 作業所長

荒生 博夫

1966(昭和41)年に株式会社熊谷組に入社。
以来、現場一筋に自らを鍛え上げ、現職
にいたる。座右の銘は「実践躬行」。



今だから
話せる
ゲンバ
の失敗



かけだしの頃の失敗をお聞きになりた
いということですが、恥をさらすようで
本当はそんなことお話ししたくない
(笑)。だけど、「若い人のために」なんて
言われちゃうと、それには弱いから引き
受けざるを得ない(笑)。「技術の承継」
のひとつだと思って少し昔話でもしま
しょうか。

二十五年くらい前ですか、地下鉄のあ
る駅の改造工事のときに、今でも夢に見
るくらいの苦い経験をしたことがあります
。その工事では、駅前の幹線道路を
開削工法で施工し、予定の工事を終えて
は開口部を塞いで仮舗装するという工程
を繰り返していたのですが、そういった
ある日、その失敗は起きたわけです。

道路を舗装するときに砂や碎石などの
骨材が要りますが、その日に限ってその
骨材が水も滴るくらいに濡れたままで現
場に入ってきました。仮とはいえ、骨材
が乾いていないと舗装に使えないのは土
木の常識ですが、ご存じのとおり道路を
開削して工事をする場合、道路使用許可
との関係で夜間の作業時間はガツチリ決
まっているだけに、つい骨材が濡れたま
まで作業を進めてしまいました。

当時、まだまだ若かった私は、骨材の
不良を理由に作業を中断する勇気はな
く、結局、朝方になって道路を開放しま
した。ところが、施工場所は都内でも有
数の幹線道路で、大型車両などが頻繁に
通ります。おかげで舗装が歪みはじめ、
そのうち骨材の水分が表面に滲み出てき

て、見る見るうちに舗装が波打ってし
まった。その後、状態は悪くなる一方で、
とうとうガマンできずに所轄の警察署や
道路管理者に連絡し、乾いた骨材を手配
しなおして、もう一回、仮舗装しまし
た。もちろん、日中に車線の半分を塞が
れたそこは大渋滞。その作業中のいたた
まれない思いは今も忘れることはできま
せん。

もし、現在の私が当時と同じような状
況に置かれたとしたら、建材屋さんか骨
材を出す前に、その状態を電話でつぶさ
に確認するでしょうね。百歩譲って、仮
に状態の悪い骨材が現場に入ってきて
も、それは決して受け取らず、急いで次
をあたるようにするでしょう。

少し高みに立った言い方で気が引けま
すが、今の若い人には、当時の私のように
なことが起きたときには、ためらわず、上
司に報告してほしい」と思いますね。人
間のすることですからミスは仕方がな
い。大事なものはミスの上にミスを重ねて
しまうことを防ぐこと。何より同じ過ち
は二度と繰り返さないことです。

昔と違って今は現場に一日中張りつく
なんてできない時代だけに、若い人が経
験の浅いまま現場を任せられてしまうとい
うこともあるでしょう。そこは上司や先
輩もわかっていますから、遠慮せず、困っ
たことは何でも聞いてほしい。なにせ、
上司や先輩もそれぞれ思いあたることは
あるわけです(笑)。きつと力になって
くれるはずですよ。